

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターうさぎ園		
○保護者評価実施期間	令和7年12月10日	～	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	200名	(回答者数) 67名
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日	～	令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの課題に合わせた支援	子どもの課題に向き合い、各職種が専門性を発揮して必要な場合は連携を取りながら療育を進めている。	子どもの課題に焦点を当てた的確な療育を提供するため、個別療育を中心とし、言語聴覚士、作業療法士、保育士、公認心理師といった多様な職種が緊密に連携を取りながら療育を進めていく。
2	難聴児療育	京都府下唯一の難聴児療育施設として、早期の療育が必要とされる難聴児については、待機なしで受け入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府立聾学校と連携し、府南部全体の難聴児の支援体制を構築している。 ・児童福祉センター内の診療所耳鼻科と連携するとともに、利用児の補聴器の調整や相談等を行っている。 ・個別療育を中心しつつ、グループ療育の際には、保護者グループにおいて保護者同士の交流を図るなど、ニーズに合わせた支援を行っている。
3	保護者や事業所、子育て施設への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と療育中の子どもの様子や療育者の関わり方を共有するとともに、思いを丁寧に聞き取り、助言や保護者学習会、就学等に向けた情報提供を行っている。 ・地域の事業所、幼稚園、保育園等に対して施設の特性を生かして支援を行なっている。 ・実際に行っている支援の事例を、児童の支援を担当する皆さんの参考としていただけるよう、公開講座を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少しでも困らずに生活できるよう、保護者と一緒に考え、相談しながら療育を進めていく。 ・就学に向けた保護者学習会については、参加できなかった保護者に対し後日フォローする機会を設けた。今後も工夫して実施していく。 ・引き続き子育て施設等への支援を積極的に拡大していく。 ・公開講座については、保育園や事業所の皆さんに役立ていただけるように内容を工夫して継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園との交流など、地域の他の子どもとの交流やきょうだい同士で交流する機会の設定	個別療育が中心であるうさぎ園の療育の形では地域の他の子ども等との交流は難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と併行通園している子どもについては必要に応じて訪問するなどにより、他児童との関わりがより円滑になるよう支援していく。 ・きょうだいを担当している各療育者が連携を取り合って、保護者に的確なアドバイスができるよう努めていく。
2	情報発信	ホームページやフェイスブックで情報発信を行っているが、うさぎ園の療育が必要な方に必要な情報が十分伝わっているとは言えない。	ホームページをリニューアルする予定であり、見やすく、必要な情報が伝わりやすくなるよう工夫するとともに、定期的にメンテナンスを行うことでタイムリーな情報発信に努める。
3	地域に開かれた事業運営	個別療育が中心であるうさぎ園の療育の形では地域との交流を図る場を設けることが難しい。	個別療育であるため、地域行事に参加させていただくことや、随時見学を受け入れることは難しいため、ホームページによる情報発信等でうさぎ園の存在や意義を認めていただけるよう努めていく。